

アートピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



絹谷幸二<日月燦々北海道>より<豊穡大地北海道>

2001年 ミクストメディア・キャンバス 193.9×259.1cm (北海道立近代美術館蔵)

北海道立近代美術館では、開館25周年を記念して、現代日本を代表する洋画家、絹谷幸二氏に北海道をテーマとした作品の制作を依頼、新たにコレクションとして加えた。

絹谷氏は1971年にイタリアに留学、そこで学んだフレスコ画の古典技法を取り入れた独特の作風で注目を集め、1974年には安井賞を受賞するほか、母校、東京芸術大学で教鞭を執るなど、後進の指導にもあたっている。

このたび制作された<日月燦々北海道>は、雪に覆われた白銀の冬から、生命の源である太陽と月が燦々

と輝く春から夏、そして実りの季節、豊穡の秋へと、移りゆく北海道の季節を、道内各地の風物や動植物を織り交ぜ、パノラマ状に描いた3点組の大作。うち本作<豊穡大地北海道>は道東を舞台に、キタキツネやエゾシカ、空を舞う丹頂鶴やエゾピリカなどの野生の動物たち、ホタテ、エビ、カニなどの海の幸といった北の風物を大画面の各所にちりばめ、秋を感じさせる赤や黄色、澄んだ海の美しい青を用いた、鮮やかな色彩の対比で描かれている。絹谷氏が5度の北海道取材を重ねて描いた、まさに北海道に元気を与える「賛歌」と呼べる力作といえよう。

イタリアの旅

北海道美術協力会副会長 植村 敏



「ブオンジョルノ」「グラツツエ」なかなかスナナリとは口から出てこない。今回念願のイタリアの旅で、ミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ポンペイの遺跡、カプリ島と巡り、歴史の重みと偉大な芸術の数々、宗教の力に圧倒され、今なお感激さめやらぬ状態である。

ミラノのドウモ、天を突くように林立する尖塔と彫刻で飾られた大聖堂では、丁度日曜日のミサが行なわれていた。暗い建物のなかに鮮やかなステンドグラスとローソクの炎が醸し出す空間に、天上から賛美歌が降るようにそそがれ、一種名状し難い敬虔な気持が湧いてくるのであった。

次は、一転して強烈な太

陽の反射する海に面したヴェネツィアのサンマルコ広場は、明るく陽気なこの世の楽園かと思いがう程。ハトが群れ、カフェテラスの青磁色の椅子と建物のコントラスト、サンマルコ寺院の丸屋根は東方文化の影響とか。大鐘楼からの眺めはまさしく海上の浮き島であった。リアルト橋まで散策し、その賑わいの中で買ったサクランボはとても美味であった。

はじめのフィレンツェを小高いミケランジェロ広場から眺望。アルノ河の向うにドウモの丸屋根を見て、思わず「写真と同じだ」と



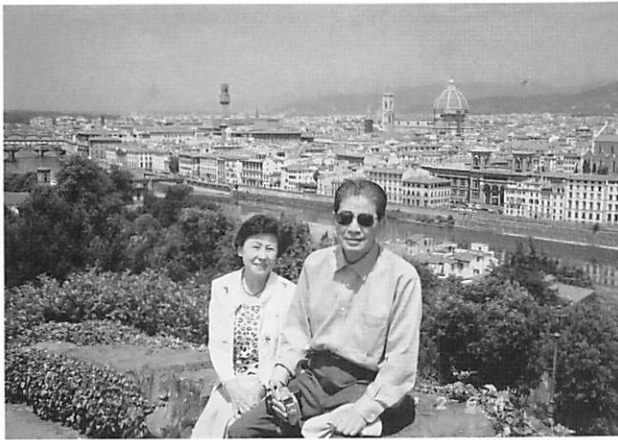
ミラノ スフォルツェスコ城

つぶやく。ドウモ（花の大聖堂）の前、白と緑の大理石に彩られた気品のあるファサード。意外と落ち着いた雰囲気の内側。ドウモの前に建つ洗礼堂には、ギベルティの傑作「天国の門」の精緻な彫刻に魅了される。だがここで、聖書知らぬ自分の理解力の無さを痛感する。これまで見てきた芸術作品のほとんどはギリシャ神話かローマの芸術、さらにそれを上回るキリスト教が生み出した芸術の深さをあらためて思い知らされた。今回の旅の目標であった「ウフィツィ美術館」三階の一室に、ポッティチエリ

の「春」と「ヴィーナスの誕生」の大作が並んでいる。何という美しさか。写真でよく見かける名作の前に今、立っているのである。名カイドのもと、次々と二時間かけて見学。ミケランジェロやラファエロの作品、ジョットの「聖母子像」、ダヴィンチの「受胎告知」と、息もつけぬ程の感銘を覚える。館を出るとガックリ疲れてしまった。ピッティ宮殿まで行ったのに、中に入る元気もなくボーボリ庭園を散策。高台のカフェでジェラードを飲みながら、美術館の余韻に浸った。至福の時である。

翌日は気持も軽く古都シエナへ。どの街にも大聖堂と広場が中心にあり、ローマ時代の街道や建物を大切に作り込んで、現在の日常生活を成り立たせている。

次は、ローマからポンペイの遺跡へ向う。水洗の公衆トイレ、浴場、居酒屋、パン屋など二千年前の古代都市ヘタイムスリップ。想



フィレンツェ・ミケランジェロ広場より(高台からの眺め)

旅の最後はローマ。スックと立つコロッセオの雄大な姿に圧倒されながらも、ここ程多くの人間や動物たちの血を貪欲に吸い取った所もあるまい、と一瞬身ぶるいする。

バチカンのサンピエトロ大聖堂。ミケランジェロの若い時の傑作「ピ

像していたよりも広く、現代に通ずる生活水準の高さに驚く。

ベスビオ火山を横に見て、フェリーでカプリ島へ。高い山頂へ階段状に並ぶ白壁の建物、木々の緑が映え、南国リゾートの気分満喫。翌朝早く出掛けた「青の洞窟」、近づくとき小さなボートに四く五人つつ分乗し、「体を低くするように」と言われ、切り立つ岩壁に開いた小さな穴の中へ。波のうねりに合わせて潮の引いた

時に船頭が低い姿勢のまま「エイッ」とばかり鎖をたくり寄せる。大波が後から押しよすようにボートは穴をくぐり抜ける。穴は完全にふさがれ洞窟の中へザブン。まさしく名人技である。広い洞窟の中は、穴から入る光線が屈折して、この世のものとも思われぬ水の青さがきらめくのである。帰りは、慎重にタイミングをはかり漸く脱出したが、時間とともに波が高くなり、我々の直後にはクロローズになってしまった。

エタ像」の前では、多くの人達が引きつけられるように動かなかつた。修復なったミスティナ礼拝堂では、「天地創造」や「最後の審判」をゆっくり見学する。すごい力で心に迫ってくるものを押えることが出来なかつたが、ささやかな自分の言葉ではとても表現できないのが残念である。

イタリア最後の夜は、ホテルの夕食を辞退して「カントォーネの夕べ」に参加。ワインを傾けながら聴く男女五人の豊かな声のひびき。我々の良く知っている曲が多く「これぞカントォーネ」と私も思わず立ち上り拍手喝采を送った。

多くの物を見、土地に触れ、味わい、これ程豊かなお土産を心に残して、無事旅を終えることが出来、心から喜んでいる。

(旅を終えて)

○今回は、「熟年コース」を選択した。一ヶ所二泊以上で、それぞれフリータイ



バチカン サンピエトロ中庭の松ボックリの像

ムが組まれていたので、体調は快適であった。また、バゲージは、ドアからドアまで、本人の手をわずらわさずに済んだ。

○旅のきめ手は、現地ガイドもさることながら、添乗員によって左右される。今回は、気くばりも良く、我々と一緒に旅を楽しむという雰囲気的女性であった。特にツアーの終りには「旅のメモ帳」を書いてくれたので記憶のうすれた所や状況を思い出すのに便利である。

○私は難聴のため、これまで現地ガイドの説明には苦労したが今回は、イヤホンガイドがあつたので助かった。

○お金は、昔は「10万0千リラ」と単位が大きかったが、今回はユーロが普及されており、ドルと殆ど同じ感覚で使うことが出来た。

○幸いにして、一件の事故もなく、これは添乗員や現地ガイドが繰り返し「スリにご用心」と言ってくれた事が良かったのかもしれない。まことに恵まれた旅であった。

- 植村 敏氏 プロフィール
- ・昭和五年一月三〇日生
 - ・昭和五四年北海道庁網走支庁長
 - ・昭和五六年北海道教育委員会教育長
 - ・平成六年協力会理事
 - ・本年六月副会長に就任

北海道立近代美術館

回想・北海道の25人

10月23日(水)～12月8日(日)

北海道の美術は明治時代の末頃から本格的な活動が始まり、以後大正、昭和を経て全道的な公募団体の創立や中央画壇への進出が相次いで、その活況は今日にいたるまで引き継がれています。こうした北海道美術の着実な発展が、才能豊かで独創的な芸術をうち立てた多くの道産子画家たちによって築かれたものであることはいうまでもありません。

北海道立近代美術館は開館の年(昭和五十一年度)以来、北海道の近代美術史に重要な足跡を残した作家の回顧展をほぼ毎年開催してきました。初回の神田日勝展を皮切りに、とりあげた作家は昨年度までで二五名を数えます。こうした回顧展の開催は、その作家に関する調査・研究を進展させ、それは北海道美術史研究のプロセスとしても大きな意味合いを担っています。また、回顧展を機に作品の収集に至ったケースも多く、当館コレクションの充実にも役割を果たしてきました。本展は開館二五周年を機に、主に収蔵作品の中からこの二五作家の秀作を一堂に展示し、北海道美術の歴史を回顧するとともに当館の個展開催のあゆみも振り返るものです。

出品作家は明治二二年生まれから

昭和二三年生まれと幅広い世代におよび、活躍の分野も日本画、油彩画、版画、彫刻と多岐にわたっています。出品作品は昭和初期からごく近年の制作になるものまでを含み、テーマや手法もヴァリエーションに富んでいます。自然の多彩な相貌や、画家の心中に現れた情景、あるいは画家自身を含むさまざまな運命を背負った人間の姿が、時に荒々しく情熱的な筆触で、時に写実と幻想を織り交せて、また時には純粹な色彩と形態で表現されています。

この機会にぜひ、北海道美術史に豊富な成果をもたらした二五人の芸術を鑑賞いただき、作家の強い個性や、作品成立の背景となった時代相、そして画面に漂い出る風土性など、北海道が生んだ美術の多彩な魅力を発見していただければ幸いです。

出品作家

日本画 岩橋英遠、片岡球子、菊川

多賀、本間莞彩、森田沙伊

(五作家)

油彩画 居串佳一、上野山清真、



片岡球子「山(富士山)」1967年



神田日勝「室内風景」1970年

版画 一原有徳、北岡文雄

(二作家)

彫刻 佐藤忠良、砂澤ヒッキ

(二作家)

小川原脩、神田日勝、木田

金次郎、国松登、久保守、

小谷博貞、砂田友治、田中

忠雄、田辺三重松、中村善

策、難波田龍起、深井克美、

松樹路人、松島正幸

(二六作家)

MUSEUM CALENDAR

2002. 9月～2003. 3月

美術館の特別展覧会ご案内

	9	10	11	12	1	2	3
近代美術館	9/4～10/14 後藤純男展		10/23～12/8 開館25周年記念 回想・北海道の25人		12/18～1/26 A★MUSE★LAND 2003 アミューズランド2003		2/5～3/23 開館25周年記念 Outspoken Glass 遠慮のないガラスー今日の日本から
三岸好太郎		9/13～11/17 二人の超現実主義者 福沢一郎と三岸好太郎			11/22～3/30 所蔵品展（第3期） 三岸好太郎美術館50選		
旭川	9/13～10/20 開館20周年記念 印象派のあゆみ		10/26～12/15 開館20周年記念 因藤壽展 精神の痕跡ーその深遠なる時空を求めて		12/21～3/23 開館20周年記念所蔵名品展		
函館		9/10～10/27 聖母子と子供たち展		11/3～12/22 道南の書の歩み	貸 館	1/19～3/23 北海道立近代美術館所蔵による オブ・アート展	
帯広	7/12～ 9/16 コリス=カ展 (自然へ)		9/27～11/14 凍土：魂のマチエール 寺島春雄展		11/22～1/10 帯広美術館コレクション選集 今日のプリントアート	貸 館	1/31～3/26 はじめての美術 絵本原画の世界
釧路	7/20～ 9/16 バビ・ア・ ラ・モード		9/28～11/24 《画業55年》赤穴宏展 ～魂へのまなざし～		12/3～1/13 第36回現代美術選抜展	1/21～3/30 釧路芸術館コレクション選	
札幌彫刻		8/30～10/14 北の彫刻展2002		10/19～3/23 平成14年度後期収蔵品展 素材と表現展			
札幌芸術の森	8/24～9/25 ロバート・ メイプルソープ レトロスペクティブ	10/1～10/20 アードル・ルックと テレビジョンの 子どもたち	10/26～12/15 亀山良雄展	12/21～3/30 芸術の森美術館コレクション選			

※貸館の場合は、会員証は使えません

道立近代美術館主催 平成14年度移動美術館

美へのいざない

北海道立近代美術館所蔵による コレクション名品展

- 共和町 平成14年9月12日(木)～9月16日(月)
西村計雄記念美術館…岩内郡共和町南幌似143番地
- 夕張市 平成14年9月19日(木)～9月24日(火)
夕張市美術館…夕張市旭町4番地の3
- 伊達市 平成14年9月27日(金)～10月1日(火)
だて歴史の杜カルチャーセンター…伊達市松ヶ町34-1

入場無料

近代美術館

後藤純男展

九月四日(水)～一〇月一四日(月)

千葉県の真言宗の寺に生まれた後藤純男(七十二歳)は、一三歳から僧侶としての修行を始めますが、幼い頃より好んだ絵の世界から離れられず、二二歳の院展初入選を契機に画家として歩む決意をします。以後、院展を舞台に、壮大な自然を幻想的に描いた作品を発表。とりわけ、昭和三〇年代半ばからは層雲峡など道内に取材した溪谷や滝の連作によって画壇に地歩を築きました。後年、平成三年に上富良野にアト



「層雲峡」1982年

リエを構えた画家は、近年も北海道を精力的に描き、絵画世界を広げています。平成九年にはアトリエ横に後藤純男美術館が開館、さらに今年六月には展示面積を大幅に広げてリニューアルオープンし、地域の重要な文化施設となっています。

本展では、「北海道の風景」「古都の四季」「中国風景」という三テーマにより、後藤純男の代表作を紹介します。

三岸好太郎美術館

二人の超現実主義者

― 福沢一郎と三岸好太郎 ―

九月一三日(金)～一〇月一七日(日)

留学先のパリで超現実主義(シュルレアリスム)を目的にしたりした福沢一郎(二八九八～一九九二)は、一九三〇年以降、鋭い諷刺精神に基づくコラージュ絵画に取り組み、日本の洋画壇に強い衝撃を与えました。一方、短い画業の中でさまざまな作風を変貌させた三岸好太郎(一九〇三～一九三四)は、その最晩年、蝶や貝殻をモチーフに詩情豊かな夢幻の世界を繰り広げてい



福沢一郎「嘘発見器」1930年
群馬県立近代美術館蔵

ます。二人の作品はともに独立美術協会展に発表され、超現実主義的な絵とみなされましたが、手法や内容の点で大きな相違があります。また、二人が超現実主義的な作品を制作したのは限られた一時期のことでした。

本展は、福沢一郎と三岸好太郎の作品を通して日本における超現実主義のすぐれた受容例を紹介するとともに、それぞれにとつての超現実主義の意味を探ろうとするものです。

旭川美術館

因藤壽展

精神の痕跡―その深遠なる時空を求めて

一〇月二六日(土)～二月一五日(日)

因藤壽は稚内市に生まれた道北ゆかりの画家です。因藤は、北海道大学応用電気研究所に勤務のかたわら、一九四七年から絵画を描き始めました。五六年からモノクローム(単色)絵画を手がけ、読売アンデパンダン展でさまざまな評価を受けるなど、大きな注目を集めました。

六三年のさいたま市移住後は、一〇点程の作品を一つのシリーズとして数年かけて制作し、個展を中心に発表を続



「作品 78.3.9.A」
1978～79年

けてきました。とりわけ七〇年代はじめ以降は、木パネルにベニス剤を置いて下地をつくり、その上にキャンバスを貼り、紫の絵具を独自の技法で何層も塗り重ねるモノクローム絵画を一貫して制作してきました。それらには作者の深い人間探求に基づく精神的な絵画空間が形成されています。

本展は、因藤壽の初の本格的な回顧展です。初期のシュルレアリスム風の作品から近年の代表作までの約九〇点によってその画業の全貌を回顧します。

函館美術館

道南の書の歩み

一〇月三日(日)～一二月三日(日)

書を主要なコレクションとする当館では、毎年様々な切り口で現代書の動向をご紹介してきましたが、今回は近世から幕末、近代まで遡り、道南に残る書蹟に着目します。

古くは初代松前藩主・慶広の典雅な仮名書、文学を好んだ十代藩主・章広の漢字書など北海道以前の「蝦夷」の書に当時の教養と文化を垣間見ることが出来ます。また、北方に夢を託した来道者が数々の漢詩や句歌をしたため



金子鷗亭「自作句 漂渺の気流」1978年

明治期には書の普及を目的とした書家が来道し、北海道の書の発展に大きな影響を残しました。本展では松前町出身の現代書家・金子鷗亭の書業まで、道南の書の歩みをたどります。

ました。松浦武四郎と頼三樹三郎による「一日百印百詩」(版本)をはじめ、東北の藩士・岡千仞や菊池九江、開拓判官の岩村通俊や島義勇など北海道の歴史に名を連ねる面々の書が集います。

帯広美術館

凍土・魂のマチエール
寺島春雄展

九月二十七日(金)～十一月四日(木)

道東ゆかりの油彩画家・寺島春雄(一九一〇～一九六六)の展覧会を開催します。

旭川に生まれた寺島春雄は、まもなく移り住んだ釧路にて絵筆をとり、一九三〇年代から道展や独立展に作品を発表します。その後、病氣療養のため移住した帯広においてさらなる制作活動に取り組み、一九五六年には新道展創立に参画するなど、一九六六年に結



「赤の原野」1959年

核で亡くなるまでの間、戦後北海道美術の発展に重要な役割を果たしました。絵の具を厚く塗り込めた堅牢な画肌、重厚な色彩を特徴とする独自の表現は、厳しい風土や自らの精神世界を反映した特異な絵画世界を構築し、その後の北海道の抽象画界に多大な影響を与えています。

本展では、画家の主要な作品を中心に展示し、その芸術を紹介しています。

釧路芸術館

《画業55年》赤穴宏展

「魂へのまなざし」

九月二十八日(土)～十一月二日(日)

油彩画家・赤穴宏(一九二二年根室生れ)は、新制作協会を主要な活動の中心に、国内外の美術展で活躍を重ね、様々な表現の中に独自の絵画造形を追究してきました。

初期の制作にみられる繊細な詩情と憂愁の漂う街の一隅、一九五〇年代中頃から試みられる一種幻影的な抽象表現や造形の実験、一九七〇～八〇年代に再び具象表現に転換して、独特の視点からの東京風景や静かな緊張感に満ちた静物表現、さらに近年は具象と抽



「白い工場」1950年

象、虚と実の入りまじる特異な絵画空間に、深い情感と心象が生まれる特色ある画境を深めています。

主題や作風に多様な変化を見せながらも、そこには常に自らをみつめ、対象と語り、厳しい造形精神の根源を追い求める画家自身の姿が現われているといえるでしょう。

今回の展覧会では、初期の風景作品から最近作までの代表的秀作六八点を展示し、半世紀以上にわたる画業の軌跡を回顧します。

赤穴宏の魅惑ある絵画世界をぜひご覧ください。

芸術の森美術館

亀山良雄展

一〇月二六日(土)～二月一日(日)

毎年、札幌の芸術家を紹介する展覧会を開催していますが、今年には画家亀山良雄の初めての大規模な回顧展を開催します。写実的描写の一九四〇年代の作品から、六〇年代のアルフォルメル風の作品を経て、再び人物を重要なモチーフとしながら不安感漂う非現実的な世界を生み出していく四〇年以上に及ぶ画業をたどりまします。また、画面構成を何よりも重視する彼が残した膨大な量のエスキースをあわせて展示し、制作の背景にも迫ります。



「ひとり」1973年
北海道立近代美術館蔵

制作活動の一方で彼は、坂垣道、畠山三代喜とともに「道展三羽鴉」と称せられるほど戦後の北海道美術協会において重要な役割を果たすとともに、札幌北斗高校、北海道女子短期大学(現・北海道浅井学園大学)において、永きにわたり教鞭を執り、美術教育にも大きく貢献しました。本展は、没後五年を経て改めて彼の芸術と活動を振り返り、北海道美術における彼の特異性と存在の大きさを検証しようとするものです。

札幌彫刻美術館

「北の彫刻展2002」

八月三〇日(金)～一〇月一日(月)

「北の彫刻展」は、彫刻の鑑賞の場を提供し彫刻に対する理解を深めていただくことを目的に、北海道を活動の拠点とする作家を招き隔年で開催してまいりました。

今展覧会は、出品作家を大幅に刷新し、人数を八名に絞り一人当たりの展示空間に余裕を持たせました。全員が北海道出身ではありませんが、現在北海道にアトリエを構え制作活動をしていることを共通点として、一〇年以上のキャリアをもとに自由な視点で制作された作品が出品されます。



寺田栄「植物」1999年

はじめ、石や木、金属を使った抽象作品など多彩です。

今回は、伊藤隆弘、岡沼淳一、小川誠、小野寺紀子、川上りえ、菅原尚俊、寺田 栄、藤井忠行の八名、一七点の作品が出品されます。

これまで出会わなかった作家の作品が一つの空間に置かれることは、緊張した空間が構成されます。個性のぶつかり合いは、お互いの魅力がより際立たせることになるでしょう。北海道に於いて活躍する作家の現在を、是非ご覧下さい。

知床連峰



小尾 和子

その年の夏、私は数年来の希みを
実現した。麓の街から仰ぎみて憧れ
ていた知床連峰の縦走だった。

北大くま研の学生二人をサポート
に、斜里町側のウトロから羅臼岳に
登り、三ツ峰あたりで一泊。サシル
イ岳、オツカバケ岳、知円別岳を経
て、硫黄山のガレ場を仰ぎみての一
泊。二泊三日の旅だった。普通は一
泊一日くらいのコースらしいが、私

はゆっくりと楽しみたかった。実
は登山口にある木下小屋にあった一
枚のシレットコスミレの写真が、私を
硫黄山に誘っていただいたのだ。シレット
コスミレは、高さ5〜10cmのスミレ
科の多年草。そして知床半島の固有
種。その日、北側の斜面(だったと
思う)で出会った！砂礫だけの大地
に細い茎をすくくと立たせてたくさ
んのスミレが、小さな身体全体をみ
せていた。地下で縦横に根を伸ばし
ていた。楽しい登山だった。

私は昨年より札幌に住むことになっ
たが、それまで十四年間生活してい
た羅臼町での大切な思い出の一つが、
この知床連峰の縦走である。

W杯の置き土産



田中 佳子

「ロナウドが蹴った！」二十一世
紀初、アジア初、二国共同開催初と
注目されたW杯はブラジルの優勝で
幕を閉じた。七二年冬季オリンピック
クから三〇年。三試合の開催地に選
ばれた札幌は世界を間近に見る最高
の指定席を手に入れた。その指定席
で我々が見たものはどんな光景だっ
たのだろうか。

それは大勢の外国人。大通り公園
を横切る老婦人が「進駐軍以来だわ」と
つぶやいた。彼らは四年間待ち望
んだもののために、言葉も通じない
国で安宿に泊まり、コンビニで買っ
た缶ビールを道端で飲みながらも極
上の時を過ごしていた。

不況に悩む日本。「最近いいこと
ないね」とは決まり文句だが、日本
よりも長く経済低迷が続く欧州や発
展途上の中南米の国民は上手に人生
を楽しんでいる。日本は欧米の生活
水準を目指し世界第二の経済大国に
なった。この辺で彼らの生活のあり
様をもう一度眺めるのもいいかもし
れない。

A・RE・KO・RE

三岸好太郎美術館

コンサート&ミニ・リサイタル

- 9月7日(出) 14:00~ 56回コンサート
- 11月30日(出) 14:00~ 93回ミニ・リサイタル
- 12月7日(出) 14:00~ 57回コンサート
- 12月21日(出) 14:00~ 94回ミニ・リサイタル
- 1月25日(出) 14:00~ 95回ミニ・リサイタル
- 2月1日(出) 14:00~ 58回コンサート
- 3月29日(出) 14:00~ 96回ミニ・リサイタル

三岸好太郎の代表作<オーケストラ>にちなんだ
音楽会。展示室内で開催します。

プロの音楽家による**コンサート**

音楽家をめざす若手による**ミニ・リサイタル**

入館700万人を突破



ラッキーな700万人目の方には
協力会からも記念品贈呈

『ゴッホ展』で賑わう道
立近代美術館の入館者が、
7月25日、開館以来700万
人に達しました。

すぐれた芸術作品の魅
力に生で触れて欲しいと
の願いのもと、同館がオー
プンしたのは、1977年の
7月21日でした。今年25
周年を迎えましたが、年
間の平均入館者数は28万
人にのぼります。地方の
公立美術館の中では、上
位にランクされています。
今後ますます大勢の方々
に足を運んでほしいもの
です。

☆特別観覧料のお知らせ—道立近代美術館☆

本号4ページで紹介の「回想・北海道の25人」
(10月23日(水)~12月8日(日)開催)は、これくしょ
ん・ぎやらしいの料金で観覧できます。
芸術週間11/1(金)~7(木)は入場無料となります。

アルテピア・ホームページ開設

14.10.1 オープン予定

内 容:ミュージアムショップ、会員募集 etc
アドレス: <http://www.artepia.or.jp>

新会員紹介

平成14年3月～平成14年7月
(敬称略)

—ご入会ありがとうございました—

3 月	札幌市 戸澤 恵理子	札幌市 池畑 テル子	札幌市 佐々木 琴子	札幌市 高田 美年子
恵庭市 古谷 須志子	〃 鈴木 菊子	〃 柳澤 俊子	〃 滝川 玲子	〃 高橋 一雄
札幌市 種田 道代	〃 斎藤 隆志	〃 前田 千恵子	〃 松村 美智子	〃 川口 マサ子
	〃 沼田 郁子	〃 勝木 真理	〃 山田 広子	〃 丹若 子
4 月	〃 柳田 良子	〃 本間 利恵子	岩見沢市 林 光吉	〃 片谷 三津
札幌市 春日 真弓	5 月	〃 林 正宏	札幌市 秋山 美香	〃 小川 里美
〃 沢田 敦子	札幌市 工藤 静江	〃 若松 郁美	北広島市 森 淑子	〃 山田 洋子
〃 羽田 雪子	〃 工藤 雪乃	〃 山本 佳子	函館市 西浦 誓子	〃 新居 美千子
〃 江島 千江子	〃 及能 三千代	〃 後藤 嘩子	札幌市 堺 幾久子	〃 杉山 裕実
〃 丸島 均	〃 斎藤 克弘	〃 佐藤 順子	〃 紺谷 順子	〃 三浦 順子
〃 高村 素子	〃 木村 正夫	〃 三浦 恵美子	〃 酒井 寛子	〃 吉江 妙子
〃 辻 英子	〃 吉田 智秋	〃 藤島 昶子	〃 方川 正弘	〃 関 孝敏
〃 佐藤 香	〃 小林 とよ子	江別市 尾崎 裕子	〃 寺井 敏洋	〃 熱田 友義
〃 扇谷 葉子	〃 杉本 真由美	岩内町 小林 澄子	江別市 釜谷 禎子	〃 小山 三千代
〃 中野 千鶴子	〃 富樫 恵子	札幌市 久保田 玉枝	札幌市 白石 肇	〃 西野 泰子
〃 鈴木 嘉余子	〃 武内 脩子	〃 久保田 厚	〃 山崎 勇司	〃 後藤 正子
〃 林 久美恵	苫小牧市 輪島 紀子	〃 加藤 和子	〃 小田 真二	〃 高見 幸子
〃 宮本 吉人	札幌市 工藤 芳久	〃 本田 肇	〃 青山 幸子	〃 成田 幸子
旭川市 千葉 茂	〃 阿部 喜美子	〃 都築 俊文	〃 加森 晶子	〃 南 篤行
札幌市 山内 政俊	室蘭市 小原 章嗣	〃 都築 祐子	〃 山田 良子	〃 藤本 和典
旭川市 村端 紀代子	札幌市 野口 和哉	江別市 川久保 美知子	〃 磯見 靖子	〃 長野 美年子
美幌町 吉野 美弥子	〃 森田 弘子	札幌市 鈴木 絢子	江別市 常田 京子	〃 高橋 久美子
札幌市 佐伯 隆子	〃 上元 明子	〃 大 中 富紗子	札幌市 浅野 京子	〃 柴田 泉
〃 佐々木 昭	帯広市 谷内 麗子	〃 加藤 広江	〃 河野 朋雄	〃 佐々木 利香
〃 佐々木 千桂子	札幌市 小林 すず子	7 月	〃 堀川 美英子	〃 福富 一子
〃 藤井 玲子	〃 久慈 スミ子	旭川市 徳本 禄親	〃 山田 加織	〃 中村 美紀
〃 片山 佐栄子	〃 金山 由美	札幌市 佐藤 恵美子	〃 松坂 志津枝	
〃 加茂 雅子	〃 丹羽 貴子	〃 中垣 正史	〃 中村 好	— 法人会員 —
〃 堀部 一郎		小樽市 宇野 恵理子	〃 奥岡 茂雄	4 月
滝川市 坂本 勝彦	6 月	札幌市 山本 敏子	〃 宮川 由利子	財務省共済組合北海道
札幌市 大川 勝代	札幌市 横山 志津子	〃 窪田 京子	函館市 木谷 和子	財務局支部
〃 秋田谷 章子	〃 金子 寛治	〃 森山 令子	札幌市 藤原 信洋	
七飯町 瀬野 泰文	〃 田中 佳子	〃 本間 洋子	小平町 岡田 真美	
札幌市 十亀 弘子			札幌市 志道 睦子	

五月二一日美術館協力会総会終了後、「つどい2002」が開かれました。今年は一二六名の参加で最初に近代美術館館長水上武夫氏の講演がありました。「最近思ふこと」と題し、「ご自身が読んだ本の話しや、遠くにお住まいのご両親の事など、幅広い内容でした。

その後美術館ロビーに会場を移し、ワインパーティーを楽しみました。軽やかなギターと歌が流れる会場は、ワイングラスを手にした方々が楽しく語っていました。

今年も会場の一角にはボランティアの活動を紹介するための展示が行われ、多くの人が足をとめていました。

今後より多くの方が協力会に入会して、美術館に親しんで頂きたいものです。



その後美術館ロビーに会場を移し、ワインパーティーを楽しみました。軽やかなギターと歌が流れる会場は、ワイングラスを手にした方々が楽しく語っていました。

今年も会場の一角にはボランティアの活動を紹介するための展示が行われ、多くの人が足をとめていました。

今後より多くの方が協力会に入会して、美術館に親しんで頂きたいものです。

「つどい2002」

事務局だより



去る五月三十一日道立近代美術館講堂において総会が開かれ、提案の議題について審議されました。その概要について、大変遅くなりましたが主なものを中心に報告します。

議案第一号の平成一三年度の事業報告、収支決算報告については原案どおり承認可決されました。

そのなかでも、「美術展観覧者増員への協力」事業では、会員証利用可能対象館（道立の各美術館の他二館）八館に支払った観覧料は、約一千七十五万円、会員証利用者は約延べ一万七千人（同伴者を含む）でした。利用先の美術館には、団体扱いの割引料金ですが、同伴者の分も含めて、別途、協力会の会計から支払いました。

このようなことは余り会員の方々に知られていないのではないかと、武井会長が総会挨拶の中でも触れられており

ます。無料ではないのです。年々利用者数が増えることはうれしいのですが、反面支払う金額も増えてくれれば、ますます協力会の運営資金の財政圧迫となり、このことに杞憂しているところですが、現在理事会の中に運営委員会を設置するなどして改善策を模索中です。

会員数については、平成一四年三月末で法人・個人会員合計一八四四人、前年比三四人の増となっております。

平成一三年度の収支決算については「表1」のとおりです。

議案第二号の平成一四年度の事業計画、収支予算案については原案どおり承認可決されました。

ここで、平成一四年度の事業計画及び予算について報告します。

年度事業は次のように計画しています。

一 道立美術館の事業活動に対するボランティア活動協力

常設展の解説・美術関係資料の整理・十一月の芸術週間での事業・アミューズランド事業協力等

二 美術展観覧者増員への協力

会員証利用による美術展観覧者の増員協力・観覧料の負担

三 美術館普及活動への協力

会報・ポスター配布・展覧会

案内送付等の広報活動及び館外での美術館普及活動等

四 美術講座の実施（ボランティア養成を兼ねる）

内容は、前年度と同じ

五 「つとてい2002」の実施

通常総会の終了後開催、参加者二六名、道立近代美術館長水上武夫氏の講演の後、ギター演奏をバックにワインパーティ（実施済み）

六 「Junior Art Club」の実施

従来の「青空教室」の名称を改め、子どもたちを対象に、美術に対する関心を高める。（年四回、ミニ二回を含む）

七 美術研修旅行の企画・実施

(1) 第九回道内旅行（未定）

(2) 第二三回海外旅行「北欧二ヶ国とフィヨルド見学一〇日間」

九月初旬～中旬 二班編成八泊一〇日

(3) 第二〇回道外旅行「紅葉の足立・島根美術館めぐり」

(仮称)

一〇月初旬～中旬 四泊五日（予定）

八 図録・絵はがき等の作成・販売

九 「美術館協力会賞」の贈呈

学生美術全道展への後援と最優秀作品へ賞の贈呈・副賞とし

て海外美術研修旅行に招待

一〇 会員の拡大・PR

一一 売店・駐車場の経営・管理

一二 活動二五年記念事業（新規）

(1) 記念行事等

現況に適合した事業（行事）を別途企画・立案し、適時実施

(2) インターネットシステムの導入

フレームをセットするとともに、ホームページを試験的に立ち上げる

(3) アンケート調査

あらたな「あり方」を求めて各種のアンケート調査を行い、その結果をとりまとめて分析し、今後の指針を策定

(4) 「ボランティア活動五年間のあゆみ」を発行

五年間におけるボランティア活動の実績をまとめ、編集発行（五年ごと）

一四年度収支予算については、「表2」のとおりです。

なお、紙面の都合で表2には表すことができませんが、特に注目すべきものとしては、昨今の社会・経済情勢から事業の運営の遂行に少なからず支障をきたしている状況から、経費全体を見直し、「可能な限り削減を図る」「要るものは要る」として、節減については、事務室清掃及

(表1) 平成13年度収支決算総括表 (平成13年4月1日から平成14年3月31日まで)

(単位:円)

収 入 の 部					支 出 の 部				
科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計		科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計	
			売店会計	駐車場会計				売店会計	駐車場会計
基本財産運用収入	9,000	9,000	0	0	事業費	58,015,858	14,778,260	28,479,463	14,758,135
会費収入	16,381,000	16,381,000	0	0	管理費	5,732,559	5,732,559	0	0
事業収入	45,114,724	1,344,000	29,162,750	14,607,974	特定預金支出	0	0	0	0
寄付金収入	0	0	0	0	繰入金支出	800,000	0	800,000	0
繰入金収入	800,000	800,000	0	0	予備費	0	0	0	0
特別収入	0	0	0	0	当期支出合計	64,548,417	20,510,819	29,279,463	14,758,135
雑収入	105,757	1,421	3,773	100,563	当期収支差額	△2,137,936	△1,975,398	△112,940	△49,598
当期収入合計	62,410,481	18,535,421	29,166,523	14,708,537	次期繰越収支差額	30,034,485	5,364,440	23,070,101	1,599,944
前期繰越収支差額	32,172,421	7,339,838	23,183,041	1,649,542	支出合計(B)	94,582,902	25,875,259	52,349,564	16,358,079
収入合計(B)	94,582,902	25,875,259	52,349,564	16,358,079	予 算 額 (A)	105,149,000	30,298,000	54,193,000	20,658,000
予 算 額 (A)	105,149,000	30,298,000	54,193,000	20,658,000	差 異 (A-B)	10,566,098	4,422,741	1,843,436	4,299,921
差 異 (A-B)	10,566,098	4,422,741	1,843,436	4,299,921					

(表2) 平成14年度収支予算総括表 (平成14年4月1日から平成15年度3月31日まで)

(単位:千円)

区 分	収 入 の 部				支 出 の 部					
	科 目	予算額	前年度予算	差 異 備 考	科 目	予算額	前年度予算	差 異 備 考		
一 般 会 計	基本財産運用収入	9	7	2	定期預金利息	(15,251)	(15,917)	(△666)		
	会費収入	16,646	17,595	△949	法人・個人会員等年会費	12,712	14,520	△1,808	V会議費、会報・寄附品、会費振替等	
	事業収入	1,370	1,295	75	美術講座受講料・ついで会費等	625	731	△106	美術講座等開催事業費	
	寄付金収入	10	10	0	美術館研修視察事業費	202	265	△63	コーディネーター費等	
	繰入金収入	1,000	4,000	△3,000	売店・駐車場会計から繰入	401	401	0	協賛収入(寄附品)	
	特別収入	0	38	△38	美術優秀創作顕彰事業	1,311	0	1,311	協賛・インターネットサイトの制作費	
	雑収入	12	14	△2	活動25周年記念事業	6,027	6,787	△760	委託費	
	当期収入合計	19,047	22,959	△3,912	管理費	0	40	△40	美術館維持費	
	前期繰越収支差額	5,364	7,699	△2,335	特定預金支出	100	0	100	美術館維持費	
	収入合計	24,411	30,658	△6,247	予備費	21,378	22,744	△1,366		
特 別 会 計	売上収入等	29,000	31,000	△2,000	事業費	27,523	28,510	△987	仕入、賃金、施設賃借料等	
	雑収入	4	10	△6	繰入金支出	500	2,000	△1,500	一般会計へ繰出し	
	当期収入合計	29,004	31,010	△2,006	当期支出合計	28,023	30,510	△2,487		
	前期繰越収支差額	23,070	23,183	△113	次期繰越収支差額	24,051	23,683	368		
	収入合計	52,074	54,193	△2,119	合計	52,074	54,193	△2,119		
	駐 車 場	駐車料金収入	15,500	19,000	△3,500	事業費	14,889	16,024	△1,135	管理委託料、土地借上料等
		雑収入	3	9	△6	繰入金支出	500	2,000	△1,500	一般会計へ繰出し
		当期収入合計	15,503	19,009	△3,506	当期支出合計	15,389	18,024	△2,635	
		前期繰越収支差額	1,599	1,649	△50	次期繰越収支差額	1,713	2,634	△921	
	収入合計	17,102	20,658	3,556	合計	17,102	20,658	△3,556		
総 合 計	93,587	105,509	△11,922	総 合 計	93,587	105,509	△11,922			

ひ駐車場管理委託費の一部減をはじめ事務局職員二名分の給料の一〇%減。近美発行のランドール年六回発送の中止で通信運搬費の減等。要るものは、前述新規事業にかかる経費計上としました。また、全体会計の収入経費(会費収入、売上収入、駐車料金収入)もできるだけ現実性をとらえた予算を組んだつもりです。

議案第三号の会員の資格喪失(会費を二年分以上納入しないときは除名とする)については、法人会員七人、個人会員八三名が資格喪失として原案どおり承認可決されました。

議案第四号の役員任期満了に伴う改選については、鈴木英二理事(副会長)の退任。他の役員は再任。新しく魚住昌也氏を選任。欠員一名分は不補充とし、原案どおり承認可決されました。

また、報告として、理事互選での役職は、武井会長、木路、安念副会長、浦田専務理事は再任。鈴木副会長の後任は植村理事となりました。

なお、退任の鈴木副会長については、顧問に委嘱をお願いすることになりました。

この後、退任の鈴木副会長については武井会長から感謝状と記念品目録が贈られ、続いて新理事の魚住氏より就任挨拶があり閉会しました。

美へのかけ橋

アルテピア会員募集

世界の art に出会える

来館者の声

どの作品を見ても見事な絵とわかりやすい解説で、当時のゴッホが偲ばれた。

普段では見られない家族の手紙も公開され、実り多い展覧会だった。

水越 珠美

ゴッホ展を見て（近代美術館にて、7/5～8/25開催）

あの燃えるようなタッチ、私はあまり好きではありませんが、実際に見ると迫力に胸打たれます。

我家に飾る…よりもゴッホは美術館がお似合いです。

平間 友理

年会費等詳細は北海道美術館協会（アルテピア） 札幌市中央区北 2 条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



近代美術館売店商品



協会オリジナル商品。道立近代美術館の庭に咲く「木の花」をモチーフに
左から 日めくり(1,000円)、カレンダー(1,000円)、右上：グリーティングカード(150円)、右下：ポストカード(100円)

ご意見等をお寄せ下さい。

近な情報源としてご利用いただけます。

会員の皆様がこの会報をより身近な情報源としてご利用いただけます。

その足跡を礎に、新たな風を吹き込みつつ前進していきたいものです。

編集だより

協力会も25年

道立近代美術館と共に、協力会も四半世紀を歩んできました。

第10回 国内美術研修旅行

6/1案内

。「秋の山陰・山陽めぐり」

― 足立・大原美術館など ―

。十一月五日(火)から九日(土)まで、
四泊五日

主な訪問地は、倉敷市、安来市、松江市、広島市などで美術館や資料館ほかを巡ります。

紅葉に彩られた季節の中で、「美」にふれる旅です。

詳しくは資料をご覧ください。
ご参加をお待ちしています。